

「森の駅」再生 - 「月の道」への誘い^{いざな} -

「森の駅 - ケープ真鶴」リニューアル

- 産官学連携プロジェクト「魚つき保安林保全プロジェクト」との連携 -

施設概要

名 称：ケープ真鶴

所在地：真鶴町真鶴 1175 番地 1 他

所有者：真鶴町

所 管 課：産業観光課

指定管理者：株式会社スポーツプラザ報徳（平成 27 年 4 月 1 日から指定管理へ移行）

事業経緯：平成 16 年 5 月末に小田急グループの箱根観光船株式会社が真鶴町から撤退後、真鶴町直営にて平成 27 年 3 月末まで運営。平成 27 年 4 月 1 日より指定管理に移行。

主要施設： 1F 売店・喫茶・食堂 指定管理者所管
2F 遠藤貝類博物館 町教育委員会所管
第 1 駐車場 約 100 台 番場浦駐車場 約 100 台

魚付き保安林（お林）

「お林」は、寛永 12 年（1672 年）に、3 年がかりで小田原藩が 15 万本の松苗を植林、明治になり皇室の御料林となり、今なお樹齢 300 年余の樹木が悠然と聳える**首都圏最大級の魚付き保安林**。茅野原だった真鶴半島に松を植樹して生まれた森林は、踏査した専門家から「人間が再生に成功した森林としては**奇跡的**」と評価されている。

事業内容

「町の駅 - JR 真鶴駅」 - 「食の駅・集いの駅 - 里海 BASE」 - 「森の駅 - ケープ真鶴」までの「**未病を治す道**」が拓かれ、さらに高齢者が元気な町、真鶴町のライフスタイルを体験してもらうために、「森の駅 - ケープ真鶴」の再生、プロモーションを実施し、未病を治す拠点として確立する。

「民」のチカラ結集！

真鶴町では、民間企業のチカラを結集した「魚つき保安林保全プロジェクト」（以下、魚つき林 PJ）を立ち上げ、企業の CSR 活動と連携した森林保全を進めており、既に普及啓発看板設置等の保全活動に着手、町民や企業が参加した保全調査も実施中。

また、個別プロジェクトとして、産官学連携「真鶴スマート魚つき林プロジェクト」も立ち上げ、多摩美術大学と KDDI による活性化提案もされ、効果的な掲載媒体（短期：デジタルサイネージ等・長期：移動販売車等）を用いて具現化する。

柱 「民」が創る森の恵み

「民」のチカラを結集し、官民連携により、森林を楽しむコンテンツを開発し、未病を治す森のモデルを構築する。

柱 「森の駅 - ケープ真鶴」再生

「お林」の恵みを体感していただく拠点「森の駅 - ケープ真鶴」をビジターセンターとしてリニューアルし、森の恵みを享受しながらの森林浴、ウォーキング、マラソンといった健康づくりを体験する拠点として確立する。

【H27 年度事業】

民間の力を活かし「東京都心をターゲットとした強力なプロモーション」を展開。民間のアプリサービス、プレス・ネットワークを活かした宣伝をはじめ、公共空間での屋外広告や、映像素材を活かしたデジタルサイネージを都心・関東圏の主要駅を網羅する形で展開する等、癒しを求める潜在的な顧客が最も見込める東京都心をターゲット化し、短期集中的・全面的プロモーションを展開する。

また、長期的なプロモーションとして移動販売車（魚介類販売）を取得し、学生による提案を活用した、目を引く効果的なラッピングを取り入れ、未病を治す食として「魚付林の恵み」である真鶴の海の幸を広く提供し、「森の駅」、「未病を治す道」のPRを実施する。

さらに、森の駅として認定されているケープ真鶴を「森のビジターセンター」として再生させるため、空調設備のリニューアルを実施する。

【H28 年度事業】

「未病を治す森」の魅力を感じ取るコンテンツを構築するため、民間企業と連携したイベント・プログラムを実施、神奈川モデルを構築する。お林ウォーキングの他、お林の恵みである「食」を楽しむイベントや森コンサート・森ヨガ・出張プレイグラウンドといった自然体験プログラム、Run イベント等の森林を楽しむコンテンツを開拓。さらに「月の道」への誘いとしてムーンロード観察会を開催する。

また、H27 年度に引き続き、「森の駅」の機能強化として、休憩所改修、トイレの洋式化、足湯の設置、照明のLED化等、「人に優しいエコ施設」へと整備する。

事業費	平成 27 年度	事業費(予定)	27,831,000 円
		県西地域活性化プロジェクト推進交付金	23,000,000 円
	平成 28 年度	事業費(予定)	23,611,000 円
		県西地域活性化プロジェクト推進交付金	20,000,000 円